

摩	摩	利	利	衆	衆	俱	俱
訶	訶	弗	弗	所	所	皆	皆
迦	迦	摩	摩	知	知	是	是
葉	葉	訶	訶	識	識	大	大
摩	摩	目	目	長	長	阿	阿
訶	訶	犍	犍	老	老	羅	羅
迦	迦	連	連	舍	舍	漢	漢

衆	衆	孤	孤	在	在	如	如
千	千	獨	獨	舍	舍	是	是
二	二	園	園	衛	衛	我	我
百	百	与	与	国	国	聞	聞
五	五	大	大	祇	祇	一	一
十	十	比	比	樹	樹	時	時
人	人	丘	丘	給	給	仏	仏

味わう

- 仏 仏陀ともいう。目覚めたもの、真理をさとったものという意味で、ここでは釈尊を指す。
- 舍衛国 舍衛城ともいう。釈尊の時代、インドにあったコーサラ国の首都。
- 祇樹給孤独園 祇園精舎ともいう。「阿彌陀經」が説かれる舞台。
- ※くわしくは、「ラム」『阿彌陀經』の舞台、祇園精舎（七三頁）を。
- 比丘 出家した仏教徒の男性。同じく出家した女性を比丘尼という。
- 阿羅漢 煩惱を滅し尽くした者。仏弟子の到達する最高位を指すこともある。
- 長老舍利弗（〜阿菴樓駄） この『阿彌陀經』の教えが説かれる際、その場にいた弟子たち。

書き下し

かくのごとく、われ聞きたてまつりき。ひと時、仏、舍衛国の祇樹給孤独園にましまして、大比丘の衆、千二百五十人と俱なりき。みなこれ大阿羅漢なり。衆に知識せらる。

現代語訳

次のように、わたしは聞かせていただいた。
あるとき、釈尊は舍衛国の祇園精舎においてになって、千二百五十人のすぐれた弟子たちと一緒であった。
これらはみな世に知られた徳の高い阿羅漢であつて、